

2. 知事あいさつ

南高校の皆さん、座談会に応募をしてくださいまして本当にありがとうございました。マネジメント学習で皆さんが勉強して、いろいろ考えられた成果についてのプレゼンテーションを本当に楽しみにしています。

まず、今、高知県全体としてどのような課題を抱えていて、どのように対応しようとしているのかについてお話しします。

高知県にはいろいろな課題があります。経済、教育、社会福祉の問題もあります。例えば、一人当たりの名目GDPは国全体としてもものを新たにつくり出した量を表すもので高知県は全国第46位、工業品出荷も全国47位で、多くの経済の指標で高知県は全国でも最下位クラスです。

高知県の経済は昔から厳しかったですが、特に平成12年くらいから状況が変わってきました。それまで全国と高知県を比べたとき、全国がいいときは高知県も良くなって、悪いときは高知県も悪くなるということはずっと繰り返していました。しかし、全国は平成12年から19年までずっと景気が良く、経済が成長しましたが、この時期に高知県はほとんど良くなることなく低迷し続けました。いろいろな原因はありますが一言で言うと、人口が減り、高齢化が進み始めた。生まれてくる赤ちゃんの数より亡くなる方の数が多いからこういうことになっています。人の数が減るので、物を作る量も当然減り、経済の規模は段々小さくなってきました。例えば、小学校に一人入ればランドセルを一個買いますが、小学生が減るとランドセルの売り上げも落ちるといって、経済は小さくなってきました。若い人が減ったのと高齢化が進んだダブルのショックで、高知県の経済はどんどん縮んでいる状況です。

昔と比べてどのくらい若い人が減ったのか。私は高知市立鴨田小学校の出身で、4年生のときに学校が二つに分かれました。分かれてもなお、鴨田小学校の児童数は2,000人で、当時高知県で一番大きい小学校でした。今も一番大きいですが、960人しかいません。そういう形で人口が減り、高齢化が進んでいきました。日本国全体がいずれこういう状況になってきます。皆さんが大人になっていく時代は、人口減少・高齢化が進んでいくと言えらると思います。そういう厳しい状況に、高知県が最初に突入しています。「こういう県をどうやって元気にしていくのか」については答えがないです。この状況から抜け出して、人々の暮らしを元気にしていく、若い人たちも県内に残るようにしていくためには、自らが自らの力で、必死になって知恵を絞り出して、一生懸命汗をかいて高知県を元気にすることを考えていかなければなりません。

高知県の経済をもっと元気にしたいと作り上げたのが産業振興計画です。今年の4月から、「本気で実行」と取り組みを進めています。県内市場が小さくなっているのだから、外からお金を稼いでくることや観光客を呼んで来て県内でお金を使っただくことを考えなければなりません。地産外商と言っていますが、高知県で産したものを外で商って、お金を稼いでくる取り組みが必要だと思ひます。

これから、「高知県はどうせ田舎やき、まあ適当に程々に」という発想ではじり貧です。高知県のようなところだからこそ、全国に出ていってお金も稼いでくる、人も呼んでくることをしなければ生き残れません。

外に打って出ていこうとしたときに、高知県はものすごく恵まれているのではないかと思います。例えば、来年は大河ドラマが「龍馬伝」で、1年間、岩崎弥太郎と坂本龍馬の二人が主演となります。これも絶好のチャンスですが、「高知県の歴史上の人物と言えば、坂本龍馬」と全国で多くの方が分かるでしょう。こういう県は珍しいです。それを持っている私たちは、歴史で全国に情報発信できる、史跡を見たいと来てくれる観光客を獲得することもできるのではないかと思います。

そしてもう一つ、高知県は食べ物がおいしいところです。旅行会社が、「あなたが行った観光地の中で、地元ならではのおいしい食べ物が多かった県はどこですか」というアンケート調査を取って、2007年は高知県が全国第1位、2008年は1位が香川県で2位が高知県、2009年は1位が沖縄県で2位が高知県です。高知県は今の段階では全国的にそれほど有名ではないですが、行ってみたら楽しくて、食べ物はおいしくて良かったと多くの方に評価を受けているのではないのでしょうか。もともと素材が良くて、いい魚が捕れる、いい野菜が取れる、そして、いい食文化があって、上手に調理することができる。更にその食べる雰囲気を楽しめる。高知県の宴会ぐらい盛り上がり楽しい宴会はないです。そういうものも全国の人にPRすることのできる強みだと思います。

また、高知県には、すばらしいアイデアを持った人材がたくさんいます。よさこい祭りは昔からあったものではなく、戦後、商工会議所の皆さんが高知を元気にしようと考えだしたお祭りです。このお祭りは、今、全国220ヵ所で踊られています。全国で通用するお祭りではないでしょうか。高知県は、全国に誇る強みをたくさん持っています。その強みを全国の人にもっと知ってもらい、実際にスーパーで高知県のものを手に取ってもらって、観光客として高知県に来てもらわないといけません。高知県のPRだけでなく、商売などについても作戦を立てて、大きなデパートとの取引などをどんどん進めないといけません。観光客もこの「龍馬伝」の機会に来てくれるように取り組みを進めています。

産業振興計画の取り組みはまだ始まったばかりですが、幸いにしているいろいろな形で少しずつ、歩みは前に進んできたと思います。例えば、県外にももの売り込む機会、商談会とか高知県産品フェアは、今年は去年の3.4倍くらいできます。阪急阪神グループは、野球場、電車、ホテル関連のお店でも、来年1月から3月くらいにかけて高知県の丸ごと売り出してくれるようになりました。でも、実際に計画を立てて実行すると、やはりうまくいかないところもあり、新しく課題が見えてきます。批判を受けることや、提言をしていただけることもあります。そのような批判や提言を入れて、この計画を来年3月までに見直すつもりです。そして、もう一回アクションをしていく。PDCAサイクルと言いますが、これをずっと続けていこうと考えています。今年の実行元年ということで、実行し始めたところですから、来年に向けてそれぞれもっとバージョンアップするために見直しをしたいと考えています。

本日皆さんからプレゼンテーションをいただいたら、その見直しに向けた新しい良い知恵をいただけるかもしれません。皆さんのプレゼンテーションを本当に楽しみにしています。本日はどうぞよろしくお願ひします。